発行
大島郡医師会
奄美市名瀬塩浜町３－１０
TEL0997－52－0598
FAX0997－54－0597
印刷 南海日日新聞社

大島郡医師会だより

No.103 2024.10月号

医師会病院
虹の丘
訪問介護事業所
訪問看護ステーション
居宅介護支援事業所
グループホーム虹の丘
養護老人ホームなぎさ園
臨床検査センター

救急医療講演会を開催して

大島郡医師会
救急医療担当理事　津畑　修

7月から大島郡医師会救急医療担当理事を任命された津畑と申します。

さて、大島郡医師会では、9月8日から9月14日までの救急医療週間にちなんだ令和6年度「救急医療講演会」を9月10日、アマホームPLAZA（奄美市市民交流センター）で開催しました。天候にも恵まれ、奄美市をはじめ本島内地域住民約200人の皆さんが聴講に訪れました。

講演は2題で、講演Ⅰは「あなたのその手が：命を救う！～いざという時に一歩を踏み出せますか?!～」、大島地区消防組合・龍郷消防分署救急係長の森 一郎さんが講演され、講演Ⅱは「もしもの時、あなたはどうしますか？～救急医療の先にある臓器提供という選択～」、県立大島病院救命救急センター長の中村 健太郎先生が講演されました。

講演Ⅰでは救命の連鎖によるバイスタンダーの重要性と劇的救命事案を示され、現在、龍郷町で行われている学校BLS教育についての紹介でした。劇的救命事案では乗用車運転中に心筋梗塞を発症して気を失い、車を路肩にぶつける事故。その際にバイスタンダーの方々が当時者を車外へ搬出し、胸骨圧迫などの懸命な救助活動をされている状況をドライブレコーダー映像で提示されました。バイスタンダーの重要性ではR4年全国の応急手当実施率59.2％に対してR4年大島管内では85.7％、またR4年全国の1ヶ月後社会復帰率6.6％に対してR5年大島管内では7.0％という全国平均を上回るデータが示され、大島管内での救急医療意識の高さを感じました。龍郷町学校BLS教育については、森さんの経験談から小学校からの教育が重要であり、年少期から段階的に命の尊さとスキルを身につける学校教育への取り組みが詳細に教示されました。講演後、完全社会復帰された当事者とバイスタンダーの方、現場に駆けつけた救命救急士、病院で治療にあたられた医師の4名が登壇。それぞれが当時の状況や心境をお話しされ、そして会場の皆さんへメッセージを語られました。会場の皆さんも熱心に聴講され、救命の連鎖がうまく機能した素晴らしい事案に感銘を受け、もしもの自分の行動について考えさせられたと思います。

講演Ⅱでは「救命救急では手を尽くしても救えない命がある」というお話しから「移植医療について知る、臓器提供は誰のための医療か？」という内容でした。脳死臓器移植、心停止後臓器移植の死体臓器移植の種類とそれぞれの違いや、脳死の概念などをわかりやすく説明したうえで、自分自身や家族が臓器移植を受ける側、提供する側になった時の意識提起をされました。国民の脳死臓器提供に対する意識から臓器移植に関する話題と、2010年の改正臓器移植法施行から脳死下臓器提供件数が増えていること。2018年の臓器取引と移植ツーリズムに関するイスタンブール宣言から移植医療の自国完結が求められていること。2021年の日本臓器移植ネットワークが提供している情報からは移植希望登録者数は増加傾向であるが、2022年の臓器提供および移植に関する国際的データベースでは、我が国の臓器提供者数は100万人あたり0.9人と先進国のなかでもかなり下位に位置しており、我が国における移植医療の普及が重要であることを教示されました。

中村先生の実体験で、2017年の夏に溺水で脳死状態になった女性の家族から臓器提供の申し入れがあり、「報われる命・救われる命があり、そして救われる家族がいる」というお話し。この体験を通して現在、県立大島病院で行われている患者の最期の思い、家族の希望に応えられる仕組み作りを紹介され、現在までの同病院の脳死臓器提供者5名についてのデータの可視化をされました。講演を通して、会場の皆さんに「痛みの中に安らぎを見出す」、「臓器提供はできますか？」、「最悪の中での最善の選択」、「前を向く力」というキーワードを提示、またレシピエント自身やその家族からドナー様への命に感謝する言葉、そしてそこに携わるすべての方々への感謝のお手紙を紹介され、心打たれたことでしょう。臓器移植が絶望しかけていた人生を明るい、希望に満ちた人生に一変させる、ドナーと共に生きる奇跡の医療ということが皆さんへ浸透されたと思います。この講演から心肺停止の方へ遭遇した現場では、バイスタンダーの的確な対応によって救命できる命があること、そして臓器提供という選択肢で新たに救われる命があることを学びました。

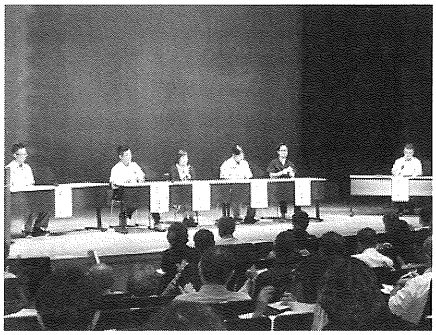
講演翌日の地元新聞では「住民同士で劇的救命」、「初動対応や臓器移植理解」と大々的に取り扱われ、今後の奄美群島の学校BLS教育発展に寄与し、臓器移植について家族で話し合う機会が設けられたと思います。救命の先にある臓器提供は、終末期患者の最期の意志に応える医療、移植患者を救う唯一の医療、遺される家族の悲しみに寄り添う医療として、来場された皆さんに発信ができました。救急医療の最初の一歩から最後の臓器提供の話題まで、有意義で素晴らしい救急医療講演会でした。

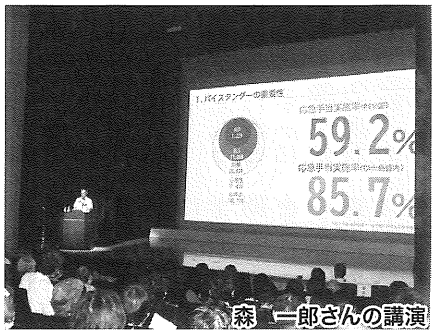
また、5年ぶりに開催された奄美群島広域事務組合主催の懇談会には、奄美群島内自治体、陸・航空自衛隊、海上保安部、消防関係者等多くの方々に参加していただき関係機関の連携が更に強まることを感じました。ご協力いただいた関係者すべての方々に敬意を表し、今後さらに救急医療の啓発普及活動に努める所存です。

令和6年度「救急医療講演会」を開催
〈見しゃり聞ちゃりや　物事ぬ知り始むぇ〉

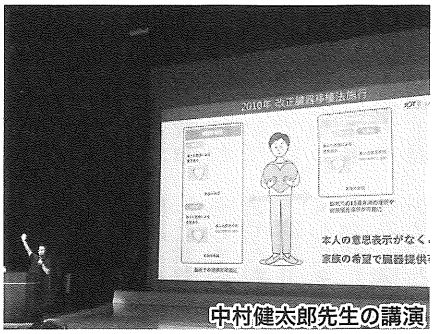
大島郡医師会では、地域での救急医療普及・啓発のため、救急の日(9月9日)を含む救急医療週間(9月8日から14日)の**9月10日㈫に、アマホームPLAZA(奄美市市民交流センター)に於いて令和6年度「救急医療講演会」〈見しゃり聞ちゃりや 物事ぬ知り始むぇ〉を開催**しました。

講演Ⅰは、「あなたのその手が..命を救う～いざという時に一歩を踏み出せますか?!～」と題し大島地区消防組合・龍郷消防分署救急係長の森 一郎さんが登壇、講演Ⅱでは「もしもの時、あなたはどうしたいですか?～救急医療の先にある臓器提供という選択～」と題し、県立大島病院救命救急センター長の中村 健太郎先生が講演されました。講演会には、２００名近くの市民の皆様が訪れ、熱心に耳を傾けていました。





森　一郎さんの講演


中村健太郎先生の講演

～「入退院支援」について関係者間で意見交換～
(参加者:名瀬保健所管内のケアマネジャー事業所・病院・有床診療所)

「第8回奄美大島・喜界島在宅医療・介護連携推進に係る情報共有検討会」

日　時:令和6年7月17日(水)18時30分～20時
場　所:①メイン会場:奄美市役所5階大会議室　②サテライト会場:喜界町役場多目的室
対　象:名瀬保健所管内の居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所、地域包括支援センターの各事業所のケアマネジャー(メイン会場は各事業所から1名のみ)及び病院、有床診療所に所属する入退院に関わる看護師・社会福祉士等)

「Ageing in Place の実現を目指して～患者さんの退院を地域全体で支えるために～」
名瀬保健所管内の市町村事業「在宅医療・介護連携推進事業」の一環として、今年も情報共有検討会を開催しました。関係機関のケアマネジャーと病院・有床診療所の関係者が一堂に会し、今後の入退院時における更なる連携推進に向けて活発な意見交換が行われました。

令和6年度上半期（4月・6月・8月）のご報告※偶数月第4月曜開催

【地域包括ケア交流会】

時間：18時30分～20時　於：大島郡医師会館4階ホール

問合せ先：大島郡医師会
在宅医療連携支援センター
（TEL0997-55-6381）

・4/22（月）第59回
テーマ：「在宅療養支援診療所」

1.「在宅療養支援診療所の役割とは」
講師：大島郡医師会理事　野﨑　義弘　医師

住用診療所長の野﨑先生

医師・看護師・保健師・作業療法士・医療ソーシャルワーカー・介護福祉士・ケアマネジャー・事務職など、多職種の皆様

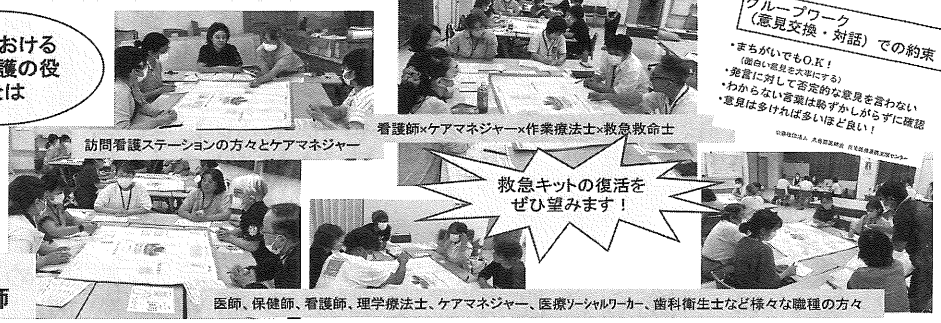
2. 植木鉢図を使った意見交換（グループワーク）
～野﨑先生の講話を聴講し、もっと知りたい情報や自分の役割について ～

・6/24（月）第60回
テーマ：「訪問看護ステーション」

1.「訪問看護とは」
講師：訪問看護ステーション連絡会長 登島 晶江 看護師

訪問看護ステーションほほえみ
管理者　登島　晶江　看護師

2. 植木鉢図を使った事例検討（グループワーク）
～ 見寄りを頼ることが難しい超高齢のご夫婦の事例～



医師、保健師、看護師、理学療法士、ケアマネジャー、医療ソーシャルワーカー、歯科衛生士など様々な職種の方々

・8/26（月）第61回
テーマ：「訪問介護事業所」

訪問介護の
これまでと
これから

1.「訪問介護事業所の役割について」
講師：奄美市社会福祉協議会住用支所　富澤　ヒロミ　支所長

地域の医療従事者の方々

訪問介護事業所のサービス提供責任者も多数参加されました

熱心に耳を傾け・・・

富澤　ヒロミ　支所長

様々な職種の方々が参加されました。
（医師・保健師・看護師・作業療法士・福祉用具専門相談員の方々や、訪問介護事業所サービス提供責任者・相談支援専門員・ケアマネジャー・医療ソーシャルワーカー・社会福祉士の方々）

2. 植木鉢図を使った意見交換（グループワーク）　～講話を聴講し、もっと知りたい情報やご自分の役割について ～

就任1年を振り返って

大島郡医師会病院
検査室長　直田　睦美

令和5年4月より検査室長に就任いたしました直田睦美です。

大島高校を卒業後は熊本の検査技師学校から鹿児島市の病院に就職しました。29歳で奄美に帰ってきましたが、10年ほどで、鹿児島、そして千葉の病院に勤務することになり、そのまま島を出て長い時間が経過してました。高齢の母親が独り暮らしのため、いつかは奄美に戻ってこなければと思っていましたところ、ご縁がありまして、令和4年の5月から大島郡医師会病院にお世話になりました。

職歴は、病院、検査センター、検査センターのブランチラボ、ホルター心電図解析センターと検査技師としては、ユーザーやメーカーと複数の立場を経験しました。直近では、検査機器・試薬のメーカーで学術営業などとして勤めていましたので、白衣を着る病院の臨床検査の現場は10年以上ぶりでした。そのため入職してしばらくは恐る恐るの日々でしたが、周りの方々のおかげで検査の感覚を取り戻し、仕事に従事できるようになりました。

辞令後に先ず取り掛かったことは、業務の見直しと改善です。検査を実施する、結果の報告、管理業務などの工程で、必要なこと、不必要なことを洗い出し、それぞれに対して対応を行いました。いくつかは下記の通りとなります。

①院内項目の測定作業手順の見直しを行い変更を実施
②件数把握のための台帳の記載はデジタル化に伴い廃止
③特殊項目の採血用にイラスト付きのマニュアルの作成
④患者様用にイラスト付きの検査説明マニュアルの作成
⑤検査室の環境整備や技師不在時のBCP作成

この程度だと思われるかもしれませんが、小さなリスクを少しでも無くすことが、安全で早く、かつ精度の高い検査を提供できると考えて実行いたしました。

幸いにも、令和4年度末の3月に検査システムが導入され、検体検査データ入力の手間や、入力ミスの防止、未検査項目や検査報告書の未到着の確認が容易となり、少し省力化出来るようになりました。各種の変更点のご案内は作成資料だけではなく、各部署へ説明を行い、ご理解とご了承を頂くことに努めるようにしました。

病院外においては、奄美での病院勤務経験が少ないため、検査に関しての連携体制や情報収集に不安がありましたが、医師会検査センターの平田所長に鹿児島県立大島病院の当時の上野検査技師長をご紹介していただき、輸血検査の実技研修会に参加することができました。離島の病院においては、血液製剤が届くまでに飛行機を使用するため、天候によっては数日かかることがあります。その様な状況の中で、輸血業務を行わなければなりません。残念ながら、当院の検査室には輸血検査専用の遠心機など機材が無いうえに、常勤者ひとりのため、不安の中で検査を行っていました。今回、研修会に参加させていただき、日常で行っている手技の確認や、新しい知識を得ることができました。何よりも、困ったことがあった際に、相談できる方達と繋がることができたことは、本当に心強く感じました。

しかしながら、常勤者は1名のため、非常勤技師3名と検査補助者の力を借りながら、検査業務を行っております。各部署の皆さんには十分な検査の体制を提供できないことをお詫びしつつ、日々の協力に感謝しております。今後とも宜しくお願い致します。

5年ぶり開催の「奄美まつりパレード」へ参加

大島郡医師会病院・虹の丘・なぎさ園ほか

８月４日、コロナウイルスや台風の影響で５年ぶりに開催された「奄美まつりパレード」に大島郡医師会として参加しました。医師会病院、虹の丘、なぎさ園の職員及び開業医の先生方など、総勢１１０名での参加となりました。この夏も猛暑が続き、パレード当日も暑さが心配されましたが、天気が曇っていたおかげでそれ程の暑さにならなかったのは幸いでした。夕方５：３０からスタートしたパレードは、屋仁川通りを出発し、アマホームプラザ、支庁通りを通って再び屋仁川通りへ戻ってくるまで続きます。途中、「がんばれ！」と声をかけられたり、時には水をかけられたり！？と様々な応援を受け、みんな楽しく元気に踊ることが出来ました。

こういった地域行事に参加することは、私たちをより身近に感じていただき、地域の皆様との距離を縮めるためにも大切なことなので、これからも続けていきたいと思います。

「奄美まつり舟漕ぎ大会」出場、男女ともに奮闘！

大島郡医師会病院

今年は数年ぶりに男子チームも結成され女子２組、合わせて３チームが大島郡医師会病院の名を背負い「奄美まつり舟漕ぎ大会」に出場しました。

初心者からレジェンド時代のベテラン、研修医の先生方が集まり毎日のように練習しました。たくさんの方が応援に来てくださり、期待に応えたいと緊張の中挑んだ本番当日、１回戦突破！２回戦敗退…３チームとも同じ結果に終わりましたが、チーム一団となり楽しくできたことは夏の最高の思い出となりました。応援してくださった皆様、本当にありがとうございました。

来年はもっと上を目指して頑張ります。

虹の丘

８月３日に行われた「奄美まつり舟漕ぎ競争」に、虹の丘からは男女１チームずつ出場しました。少ない練習時間の中、みんな一致団結して必死に頑張りました。結果はどちらも予選敗退に終わりましたが、来年は「開設３０周年」、男女共に上位を目指して頑張ります。

虹の丘だより

夏祭り

令和6年7月6日

夏の一大行事である「納涼夏祭り」を今年も7月6日(土)に開催しました。27回目となる今回のテーマは「笑顔～笑う門には福来る～」。入所者様はもちろん、ご家族様や職員、地域の皆様も夏祭りを通して笑顔になってもらいたいという気持ちでテーマを選びました。

当日は朝から快晴で夏祭り日和！と思っていたら、急な夕立に見舞われ準備が一時中断するなどハプニングもありました。しかし開始予定の夕方6:30には無事スタート出来ました。当日は多くのご家族様が来場され、久々に入所者様とゆっくり時間を過ごされていました。今回は初めての試みとして小宿中学校バレーボール部による屋台販売が行われ、中学生が飲み物やかき氷を一生懸命販売していました。今年の司会を担当する2名の職員は、どちらも初めての任務ということで緊張の面持ちでしたが、いざ始まるとその緊張もどこ吹く風。堂々とした司会ぶりを披露して会場を盛り上げてくれました。

プログラムは職員全員で踊る「虹の丘音頭」で幕を開けました。その後、小宿保育園の園児による太鼓演奏、小宿小学校吹奏楽部による演奏、西村ダンス教室の生徒たちによるダンスと盛り沢山。入所者様は笑顔で声援や拍手を送り、今回初登場のマジックショーでは、目の前で繰り広げられる数々のマジックに驚きの声が上がりました。そして最後は阿波踊り奄美連による迫力ある阿波踊りに続き、六調で盛大にフィナーレとなりました。

来年は虹の丘開設30周年となるので、今年以上に盛り上げていきたいと思います。

なぎさ園だより

地域交流八月踊り

令和6年7月27日

7月27日に地域の方々にお越しいただいて「八月踊り」を披露してもらいました。昨年参加された方はもちろん、今年初めて参加された方も大変喜ばれ、職員といっしょに見真似で踊ったりして楽しい時間を過ごしました。

敬老祝賀会

令和6年9月11日

9月11日に「敬老祝賀会」を開催いたしました。昨年に続き来賓として奄美市長、大島郡医師会長、社会福祉協議会長、地域町内会長、愛の浜園施設長を招待し、外部から祝い唄と祝舞の方々にもお越しいただきました。普段のイベントとは違った雰囲気に、入所者の皆さんは緊張した面持ちで会に臨んでいましたが、余興になるとステージを食い入るようにご覧になり、笑顔や笑い声が出て楽しんでいる様子でした。いつまでもお健やかに過ごされることを願っています。

奄美の薬草

薬草研究

奄美の自然を考える会顧問　田畑　満大

＜アマチャヅルについて＞

アマチャヅルと聞けば、何十年前の記憶が蘇ってくるのではと思います。一時期ブームを巻き起こしたことがありました。ブームが過ぎ去り、見向きもしなくなった植物です。

改めて見直してみたいと考え、取り上げてみました。

ウリ科アマチャヅル属アマチャヅルと言います。方言名があまり見当たらない事から、奄美群島では利用していなかったからでしょうか？ある地域では利用していたよという方がおられましたら教えていただけたらと思います。

１「奄美群島生物資源データベース」（国土交通省）と２「沖縄の薬草百科」（多和田真淳、太田文子著）、３「薬用植物」（中田福市・中田喜久子著）を参考に紹介してみます。１では民間療法として、全草を咳止め、去痰、慢性の気管支炎、胃弱、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、肝臓病、糖尿病、前立腺肥大、花粉アレルギー、眼精疲労、水虫、リウマチ、偏頭痛、神経痛、消炎解毒に用いる。【生薬名】絞股藍・七葉担（全草）。【有用・有毒成分】葉にダンマランタ系サポニンの２０（S）－プロトパナキサジオールを基本骨格とするギペノサイド類を含む。チョウセンニンジンと同成分を含む。【食用】若芽を野菜にする。乾燥品をアマチャの代表に煎復する。これらを調べるために、次のような文献を参考にしています。主なもの：堀田満（1989）世界有用植物事典・平凡社／鹿児島県薬剤師会（2002）薬草の詩－自然とのふれあいをもとめて－・南方新社／橋本吾郎（1996）ブラジル産薬用植物事典・アボック社／三橋博（1988）原色牧野和漢薬草大図鑑・北隆館。興味がある方は、機会がございましたら参考文献で詳しく調べられると良いと思います。

次に、２についてみますと、薬効から紹介します。【薬効】①不眠症、②体力回復、③白髪が黒髪に。【準備するもの】アマチャヅル（全草乾燥物）…１０ｇ、水…１リットル【使用法】①、②、③、共通で１日分、煮沸させた水１リットルにアマチャヅル（乾燥物）１０ｇ入れ、水が半分になるまで煎じ、一日３回服用する。以上が、多和田真淳氏などの内容です。これは、琉球が中国の漢方を学び琉球風に応用してきた長い間の経験から得られた物だと考えられます。

３の中田福市氏は、医学博士でＳ４７年琉球大学教授であり、中田喜久子氏は、東京薬科大学卒、昭和大学の生化学、医学博士です。内容を紹介しましょう。【栽培と採取】野生の物は取らずなるべく栽培して使用します。半日陰や水分の多いところが適します。水やりを十分にすれば乾いたところでも育ちます。実を播くか、茎を切って挿しても良いです。夏から秋にかけて採取し、ザクザク刻み、水洗い、そのままさっと蒸して日干しにします。【成分】サポニンのギンセノサイドが含まれます。【作用】強壮、健胃。【どうして効くか】ギンセノサイドは、滋養強壮作用のある「オタネニンジン（朝鮮人参）」の成分の一つです。煎液に高脂血症の改善作用が認められました。【用法】１、民間で乾燥した全草を強壮薬に一日１０～１５ｇを煎じ、食間に呑みます。２、お茶のように熱湯を注いで飲んでも良い。

こちらの方は、科学的に実証した方々の話です。さらに、千葉大学環境健康フィルド科学センター、池上文雄氏の日本の民間薬についての記述がネット上で見ることができましたので紹介します。日本の民間薬－その６２－甘茶蔓（アマチャヅル）。【基原】略、【来歴】比較的新しい薬草で、薬用としての利用が初めて記されたのは、中国で消炎解毒、止咳去痰、慢性気管支炎に対する利用である。我が国では、１９７７年の「アマチャヅルには朝鮮人参と同様のサポニンが含まれる」という発表から、雑草として扱われていたものがにわかに重要な薬草となった。【成分】茎と葉には、オタネニンジン（朝鮮人参、高麗人参）に含まれるサポニンのジンセノサイドと類似するトリテルペノイドサポニンのジペノサイドなどが含まれる。【薬理・毒性】人参（朝鮮人参）に含まれるジンセノサイド１１種のうちの４種が同じ成分を含み、このジンセノサイドは溶血作用が少なく組織細胞を若返らせる作用があると言われ、中国などでは古くから使用されてきた。ただし、成分の含有成分が朝鮮人参と異なっているので、全く同じ効果であるかどうかは明確でないが、粗サポニン画分には高脂血症改善作用のあることが報告されている。また、疲労回復、老化防止、糖尿病、ストレス解消、胃潰瘍、肝臓病、循環器系機能向上などの様々な効能が見出されている。副作用として、少数患者に悪心、嘔吐、腹、便秘、眩暈、耳鳴りなどが現れることがあるがいずれも比較的軽微で、続けて服用できる。【薬効と主治・用法用量】味は苦、性は寒、無毒で、消炎し解毒する、止咳し去痰する効能があり、慢性気管支炎を治すことから、中国の民間では古くから全草（七葉胆）の粉末を老人性の慢性気管支炎などに用いている。ただ、喫煙者の気管支炎に対しては治療効果はやや劣ると言われている。また、強壮、強精、利尿、肝臓障害、ストレス性疾患などに用いられる。我が国の民間療法では、乾燥した茎や葉を、一日量５ｇとして約１ℓの水で番茶のように煮出して数回に分けて服用すると、鎮静作用があるのでストレスが引き起こす胃潰瘍、動脈硬化などの予防に応用でき、生活習慣病の予防、アンチエイジング効果も期待できるとされている。以上が池上文雄氏の記述です。

さらに詳しい研究がないかと探してみたら、東邦大学医学部（自然・生命・人間先端医学講座）額田医学生物学研究所から、データとして記述をみました。次のような事が出ていました。【利用部位】地上部を８＝９月の晴天の日に、葉、茎を摘んで、水洗いをしてから水を切って少しずつ束ねておくとやりやすい。生乾きのとき、２～３㎝に刻んで、天日干しでよく乾燥させます。【薬効】強壮、強精、利尿作用、肝臓障害、ストレス性疾患、関節リウマチ、低血圧、動脈硬化などの予防、生活習慣病の予防、アンチエイジング効果も期待出来るとされています。【使用法】健康茶として、茎葉５ｇに約１ℓの水を入れ、番茶のように煮出し、服用します。鎮静作用があるのでストレスを引き起こす色々な病気に応用できます。咳止めに、一回量３～５ｇを水４００～６００ccで半量になるまで煎じて服用します。【成分】葉にはダンマラン系サポニンの２０（S）－プロトパナキサジオールを基本骨格とするギペノサイド類が多数報告されています。これらは、オタネニンジンの成分に類似し、同一の化学構造のものもいく種類か見出されています。トリデルペノサイドサポニン、ジンセイノサイドなどのサポニン。オタネニンジンと類似成分が発見されたことで、注目され服用され始めましたが、薬理効果はまだはっきりしていないので、今後の研究が待たれるところです。と、この大学のデータが、アマチャヅルについての現段階のまとめになったようです。

よくよく考えて利用ください。【注意点】副作用が出たら直ちに服用を止めてください。

奄美の医療雑話

〈65〉

元気の最良薬は「米」であったという時代

元名瀬市立奄美博物館長　林　蘇喜男

藩政時代中期の奄美では、甘藷が主食であったと言って過言ではなかった。藩からの派遣役人や島役人等の有力資産家の一部は、米食であった。大半の島民は、病人の場合は、ありあわせの片栗粉にお湯を注いで、重湯をすする状況で、胃や腸の調子がよくないときの病人食は「百合の澱粉」をお湯に溶かして服用させたと語り継がれていた。毎日汗を流して重労働の人々が米食にありつけることは皆無の状況で、米そのものは、手の届かない存在価値であると語り継がれている。「百合の澱粉」服用は、わた(腹)ぐすりと言って大切にされていた。風邪や頭痛に苦しむとき、家族たちは、米を分けてもらえそうな人々を訪ね、米が入手されると、米の粥、味噌漬物等で精力つけあげるという有様であった。村には呪法による民間治療者が居て、死者が出ると、枕もとに呼ばれて、米を入れた竹筒を振って呪法を唱えることもあったけれど、死者が生きかえるということはほとんどなかった。◎出掛けようとするとき、足が痛み、出かけなくなることがある。これを足風(アンカデ)という。そのときは、その人の年齢を最初に言って「足風(アンカデ)、神風(カムカデ)に行き交うことがございませんように、絹のような肌、もとの肌をお授けください」と唱え、水のお初とお酒のお初を供えて、呪詩を唱える。◎山中で、突然身体の異常をきたすことがある。これをヤマンカデ(山の風)と言う。ひどいときは、死ぬことがあり、半身不随になることもある。そのときは、山の尾根に立って、谷越しに口笛を吹いたり、人を呼んだりするものではないという。ウミンカデ(海の風)というのもある。◎ヒリンカデ(畳の縁の風)畳の上に寝ていても、その畳の間から吹き抜けてくる風によって、突然病気になることがある。以上の「足風・山の風・海の風・畳の縁の風」は、登山修(故人)著の「奄美民族の研究」から引用しました。

学術講演会・研修会等のご案内

◆10月17日(木)14:00～16:30
【令和6年度 労災診療費算定実務研修会】(Web 限定)

◆10月17日(木)19:00～20:30　医師会館ほか離島中継会場
【新興感染症を含む感染症対策研修会】- 日医認定産業医研修会 -

◆10月18日(金)18:30～20:50　大島支庁4階会議室
【大島地区オーラルフレイル対策推進研修会】

◆10月22日(火)19:00～20:00
※ハイブリッド開催　医師会館4Fホール
【大島郡医師会共催学術講演会】日本新薬(株)・ヤンセンファーマ(株)との共催
講演「日常診療に潜む肺高血圧症について考える ～早期診断・早期治療の必要性～」
座長：大島郡医師会病院名誉院長　眞田　純一
演者：鹿児島大学大学院心臓血管・高血圧内科学分野講師 / 診療准教授　窪田佳代子

◆10月23日(水)15:00～16:30
【診療所や介護事業所における業務継続計画 (BCP) 策定に関するセミナー】(Web 限定)

◆11月1日(金)19:00～20:00
※ハイブリッド開催　医師会館4Fホール
【大島郡医師会共催学術講演会】ノバルティスファーマ(株)との共催
特別講演「変わるか、動脈硬化性疾患に対する LDL-C 低下療法
～ PCSK9 に対する siRNA: インクリシランへの期待～」
座長：むかいクリニック院長　向井　奉文
演者：順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学先任准教授　岩田　洋

◆11月7日(木)18:30～20:00
【令和6年度 第1回かかりつけ医等発達障害対応力向上研修会】(Web 限定)

◆11月19日(火)19:00～20:00
【不眠症診療Webセミナー(仮称)】エーザイ(株)と共催企画中

◆11月28日(木)19:00～20:00
【大島郡医師会学術講演会(仮称)】日本ベーリンガーインゲルハイム(株)と共催企画中

◆11月29日(金)18:30～
【令和6年度 鹿児島県医師会 医療関連感染対策研修会】※予定

◆11月29日(金)19:00～20:00
※ハイブリッド開催　医師会館4Fホール
【DUAL Seminar in 奄美群島】住友ファーマ(株)との共催
特別講演「メトホルミンとイメグリミンの臨床 ～その違いと有用性～」
座長：稲医院院長　稲　源一郎
演者：いづろ今村病院名誉院長兼慈愛会糖尿病センター長　鎌田 哲郎

◆12月8日(日)13:00～【奄美地域医療シンポジウム】※予定

編集後記

大島郡医師会だより第103号をお届けします◆はじめに、今年元旦に発生した能登地震。震災の爪痕が残る中、前線の影響による豪雨災害が発生。度重なる自然の猛威にやり場のない落胆した住民の映像を見ると何とも言えない心苦しい気持ちになります。お亡くなりになられた方のご冥福といまだ行方不明となっておられる方々の早期発見を心よりお祈りします◆9月9日の救急の日を含む救急医療週間。今年も大島郡医師会が主催・奄美市が共催で救急医療講演会が9月10日アマホームPLAZAで開催されました。講演会には200名近い市民の皆様が足を運んでいただき熱心に講演を聴講してくださいました。第一部の講演での「あなたのその手が：命を救う～…（略）」。いざという時に動く勇気は、その対応への知識や技術を少しでも持っていないとなかなか出来るものではありません。龍郷町で取り組んでいるBLS教育は、小さいころから命の大切さを身をもって感じることができる、とても活気的な取り組みだと思います。きっと勇気ある救命行動ができる大人になってくれるでしょう。懇談会でも「是非うちの自治体でも前向きに検討したい」という声も聞かれました。救急、災害は、いつ自分の身に、また身の周りに起こるかわかりません。せめて防災に対する準備など出来ることから心掛けましょう◆奄美の夏の一大イベント「奄美まつり」。昨年は4年ぶりの開催と思いきや台風6号によりパレードと八月踊りは中止となりました。今年は5年ぶりということで、我が大島郡医師会も総勢110名が参加し、職員や地域との一体感を久しぶりに感じることができました。しかし今年の猛暑は凄かった…（本土はもっと凄かったですが）。私も島に帰省して30年。どちらかと言えば夏が来るのが楽しみでしたが、いつか恐怖を感じる季節になってくるのでは？…。（T・N）